

今日は本校の3年生が久しぶりに登校してくる「登校日」である。それぞれどんな自宅学習期間を過ごしていたのだろうか。

私の知り合いのTさんにはYさんという娘さんがいる。Yさんは高校3年生である。県外の高校に進学した。大学進学が決まり、2月から自宅学習期間に入ったため福島に戻ってきている。Yさんの学校の登校日は2月14日（金）と2月28日（金）となっており、梁川高校と同じである。卒業式も3月1日（日）なので同じである。

Yさんは2月から早速、自動車学校に通い出した。2月末には自動車の運転免許を手にする予定である。Tさんの家庭では娘であるYさんが戻ってきたのはいいが、ある問題が発生した。夕食をだれがつくるのかという問題である。Tさんの奥さんは毎晩帰ってくるのが遅い。そのためTさんはいつも一人で自分の夕食を準備している。毎晩寂しい孤食である。

それが2月からは夕食時に人が二人いる。果たしてどちらがつくるのか。交代制にするのか。とりあえずTさんは様子を見ることにした。すると娘のYさんがアマゾンで書籍を購入した。『あなたに代わって献立決めときました！毎日の晩ごはん BOOK』というタイトルだった。Tさんは、内心しめしめと思いながらも何も言わずにいた。

父と娘の夕食1日目は、幸か不幸か2月3日（月）だった。恵方巻きの日である。二人で恵方巻きを口に入れ黙って西南西を向いて食べた。翌2月4日（火）Tさんが帰宅すると、期待通り台所にはYさんの姿があった。Tさんはどんなメニューかと心待ちにしていた。購入した書籍には1日目に確か「鮭の焼き漬け」があったはずである。口の中がだんだん鮭になってきていた。そして、夕食が完成した。テーブルに運ばれてきたのは予想に反して「ぎょうざ」と「野菜炒め」だった。「あれっ」Tさんは多少驚いた。「本は買ったけれど使わないことにしたのか」Yさんによると、冷蔵庫にぎょうざがあったのでとりあえずそれにしたそうである。また、野菜炒めは今の自分でもつくることができるものだったらしい。Tさんには「明日からはどうするんだ」という不安が残ったものの娘がつくってくれた夕食に舌鼓を打った。

2月5日（水）も娘のYさんが台所に立った。出てきたのは「鮭の焼き漬け」だった。書籍に出ている1日目のメニューである。続く2月6日（木）のメニューは「煮込みハンバーグ」だった。これは2日目に出ているメニューである。どうやらYさんは書籍に出ている順番で夕食をつくっていくことにしたらしい。それまで孤食だったTさんは、毎晩娘さんがつくる晩ごはんを口にすることができるようになった。ただし、3月下旬までの期限付きなのだが。

娘さんが夕食をつくるようになって、Tさんはそれまでと変わらず食器洗いとお風呂洗いは継続していた。にもかかわらず、奥さんは食器洗いも娘のYさんがやっていると思っていたらしい。それを知ってTさんは多少憤慨した。洗濯も娘のYさんの担当となった。干す段になると、従来通りTさんも参加し、父と娘の共同作業となった。

娘のYさんは、4月から始まる都会での一人暮らしに備えて夕食をつくることにしたのであろう。それにプラスしてご両親への感謝の気持ちもあるにちがいない。県外の高校に行かせてもらったことと首都圏の大学に行かせてもらうことへの感謝である。Yさんは母親の夕食も毎晩用意している。

Yさんの自宅学習期間は自動車学校と夕飯づくりが柱となっている。梁川高校の3年生も、今まではあまりやっていた家族の食事づくりをしているのだろうか。家事のいくつかを分担して貢献しているだろうか。Yさんも梁川高校の3年生も久しぶりの学校である。2週間できっと表情も違ってきていると思う。